

# 啄木歌碑・記念碑マップ

※番号順にめぐると無駄なく見ることができます

-  歌碑 27カ所(阿寒湖畔の歌碑を含む)
-  記念碑 2カ所
-  縁(ゆかり)インフォメーション設置場所
-  啄木資料展示場所



- 1 吸うごとに 鼻がびたりと凍りつく  
寒き空気を吸いたくなりぬ
- 2 浪淘沙 ながくも声をふるはせて  
うたふがごとき旅なりしかな
- 3 北の海 鯨追ふ子等大いなる  
流氷来るを見ては喜ぶ
- 4 あはれかの国のはてにて 酒のみき  
かなしみの滓を綴るごとくに  
小奴といひし女の やはらかき  
耳朶なども忘れがたかり  
舞へといへば立ちて舞ひにき おのづから  
悪酒の酔ひにたふるるまでも
- 5 十年まへに作りしといふ漢詩を  
酔へば唄へき 旅に老いし友



- 6 さいはての駅に下り立ち 雪あかり  
さびしき町にあゆみ入りにき
- 7 神のごと 遠く姿をあらはせる  
阿寒の山の雪のあけぼの
- 8 わが室に女泣きしを 小説のなかの事かと  
おもひ出づる日
- 9 こほりたるインクの嚙を 火に翳し  
涙ながれぬともしびの下
- 10 さいはての駅に下り立ち 雪あかり  
さびしき町にあゆみ入りにき
- 11 山に居て 海の彼方の潮騒を  
聞くとしもなく君を思ひぬ

- 12 三味線の絃のきれしを  
火事のごと騒ぐ子ありき 大雪の夜に
- 13 しらしらと氷かがやき 千鳥なく  
釧路の海の冬の月かな
- 14 春の雨 夜の窓ぬらしそぼふれば  
君が来るらむ鳥屋に鳩なく
- 15 顔とこゑ そのみ昔に変わらざる  
友にも会ひき 国の果にて
- 16 さらさらと氷の屑が 波に鳴る  
磯の月夜のゆきかへりかな
- 17 花の下 たもとほる子は行きずりの  
袖の香りに物言はせけり
- 18 酒のめば悲しみ一時に湧き来るを  
寐て夢みぬを うれしとはせし
- 19 一輪の赤き薔薇の花を見て 火の息すなる  
唇をこそ思へ
- 20 出しぬけの女の笑い 身に沁みき  
厨に酒の凍る真夜中
- 21 よりそひて 深夜の雪の中に立つ  
女の右手のあたゝかさかな
- 22 葡萄色の 古き手帳にのこりたる  
かの會合の時と處かな
- 23 火をしたふ 蟲のごとくに  
ともしびの明るき家に かよひ慣れにき
- 24 波もなき二月の湾に 白塗の  
外國船が低く浮かべり
- 25 西の空雲間を染めて 赤々と  
氷れる海に日は落ちにけり
- 26 あはれかの国のはてにて 酒のみき  
かなしみの滓を綴るごとくに  
(阿寒湖畔の歌碑)
- 27 神のこと遠くす可多を阿ら者世る  
阿寒のやまの雪能あ希本の

# 石川啄木が生活した町

明治41年1月21日に石川啄木が釧路に到着してから、平成20年で100周年を迎えました。これを記念し、下記の6箇所に「石川啄木 縁 インフォメーション」が設置され、啄木との縁についてご紹介しています。

当時の景色と比較しながら「縁(ゆかり)」の地を散策してみたいはいかがでしょうか？

1

●旧釧路新聞社と港文館  
港文館は、旧釧路新聞社社屋の一部を復元した構造物です。実際に社屋が建っていたのは近くの釧路市上下水道部庁舎裏付近です。啄木は、新聞社2階の編集室で数多くの記事を書いており、その数は百点近くといわれています。

(設置場所：港文館)



釧路新聞社



啄木が降り立った釧路駅  
(現在の交流プラザさいわい付近)

2

●啄木の下宿跡  
啄木は、釧路に着いた2日後には洲崎町1丁目にあった関下宿(関サワ)の2階8畳間で釧路での生活をはじめました。下宿は現存していませんが、この関下宿で日記や長い手紙を書いていました。

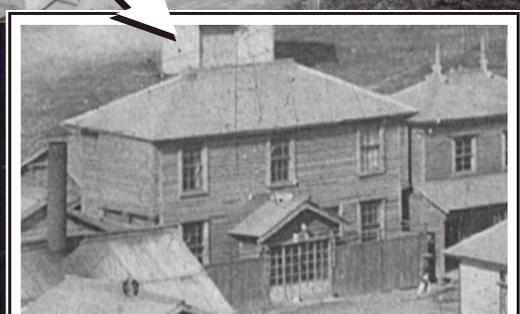
(設置場所：シーサイドホテル)



南大通全景(明治44~大正2年頃)



釧路港内真砂町通(明治43年頃)



関下宿(啄木の部屋は2階の右側)

3

●啄木ゆめ公園  
平成9年に公園が完成し、愛称名を公募しました。東京へ行って作家活動をしたいという夢を持ってこの周辺を歩いていたことでしょう。そんな啄木の夢を想って「啄木ゆめ公園」と名づけられました。

(設置場所：啄木ゆめ公園)



喜望楼(明治40年頃)



鹿嶋屋(明治40年頃)

4

●啄木遊興の地  
明治中期頃から、この一帯に高級料亭が建ちました。その中でも、料亭「喜望楼」は道東一の料亭と言われ、啄木も何度となく足を運んでいます。料亭「鹿嶋屋」もこの一帯に建っております。

(設置場所：佐野碑園)



本行寺



米町遊郭街入り口

5

●本行寺と石川啄木  
明治41年3月3日の「啄木日記」に、「本行寺の加留多会へ衣川と二人で行って見たが、目がチラチラして居て、駄目であった。」と書いています。寺の娘、小菅まさゑに誘われて歌留多を楽しんだようです。

(設置場所：本行寺)



米町方面から見た  
釧路真砂町全景(明治41年頃)



幣舞町方面から見た  
釧路真砂町全景(明治41年頃)

6

●米町公園の歌碑  
昭和の初め頃、全国に啄木歌碑は数基しかありませんでした。そんな時期、釧路の文学愛好者たちは知人岬の高台に啄木歌碑を建てる準備会を開きました。昭和9年12月26日、全国で6番目の歌碑が完成しました。

(設置場所：米町公園)